

— 企画展報告 —

企画展「外国人が見たみなとまち HAKODATE」

6月27日～10月15日の日程で、令和5年度企画展「外国人が見たみなとまち HAKODATE」を開催しました。1854年（嘉永7）に結ばれた日米和親条約により、箱館は開港地となり、多くの外国人が訪れるようになりました。今年度企画展では、「はこだて」に関わった外国人の手記やスケッチなどをもとに、幕末・明治期の街の様子や出来事を紹介しました。

「第1章 箱館、開港」ではペリー率いるアメリカ艦隊の記録である『ペリー提督日本遠征記』から当時の箱館を描いた絵や、彼らが不思議に思ったモノを展示しました。「第2章 外国からのまなび」では西洋学問により活躍した日本人について、五稜郭の設計で知られる武田斐三郎や通詞として活躍した名村五八郎らを紹介しました。「第3章 ジョン・ウィルが見た箱館戦争」は、スコットランド人の船長ジョン・ウィルの手記『Looking Back』（翻訳本『ジョン・ウィルの回想記』）をもとにして、彼が実際に経験した箱館戦争について関連資料を展示しました。「第4章 イザベラ・バード 北海道の旅」では、1878年（明治11）に日本各地を旅したイギリス人イザベラ・バードの手記をもとに展示しました。彼女は8月に函館を訪れ街を見学したのち、平取のアイヌの村に行き、言語や文化を記録しました。彼女が見た函館の様子や出会った人物、アイヌの人々の暮らしについて紹介しました。「第5章 函館公園と博物館」では、1879年（明治12）に開園し、いまなお市民の憩いの場となっている函館公園、そして市立函館博物館の前身である開拓使函館仮博物館を取り上げました。函館公園は、函館のイギリス領事リチャード・ユースデンが設置を提唱しました。函館の商人の多額の寄付もあり、官民一体となって作り上げた公園です。公園内にはユースデンゆかりのライラックが残されてお

り、現在でも春には紫色の花を咲かせています。開拓使函館仮博物館も開拓使顧問ホーレス・ケプロンの提唱によるもので、陳列品にはブラキストンやモースといった外国人が寄贈した資料がありました。

今回の企画展では「ちょっと視点を変えてみる」を展示のコンセプトとし、外国人の目線で「はこだて」の歴史を紹介しました。幕末の箱館開港から1879年までの25年間、日本史的には激動の時代でした。その中で外国人たちが見た「はこだて」は、知られざる地から北海道随一の都市へと変化していったのではないのでしょうか。現在の観光都市としての函館の中にも、さまざまな外国人たちが生きた証が残っているのだと思います。

（内田 彩葉）



— 収集・収蔵 —

収蔵資料概数一覧

※令和6年3月31日現在

分類	件数	点数
博物館史	455件	1,709点
地質鉱物	2,036件	2,936点
植物	11,114件	11,137点
動物	11,141件	24,290点
考古	11,534件	585,208点
歴史	6,746件	23,995点
民俗	7,531件	22,053点
民族	7,113件	13,889点
美術工芸	6,979件	8,374点
合計	64,649件	693,591点

※一部の寄託資料を含みます。

※一括は1件1点と計算しています。

※収蔵資料データベースの再整理を実施しているため、収蔵点数が変動しています。

※北洋資料館旧蔵、戸井・恵山町旧蔵資料は含みません。

令和5年度 新収蔵資料

- 寄せ書き屏風 ほか 86点
【函館市：長濱喜子 寄贈】
- ウミガメ剥製 1点
【函館市：豊山富美子 寄贈】
- 少年倶楽部 ほか 70点
【函館市：作山宗邦 寄贈】
- 昭和19年1月現住調査票 1点
【函館市：齋藤泰 寄贈】
- 函館名所入年賀絵葉書 2点
【函館市：垂石雅央 寄贈】
- 竹内組工事契約書類 29点
【江別市：竹内晶 寄贈】
- ジョン・ウィルの双眼鏡 1点
【函館市中央図書館 移管】
- デンビー商会封筒 1点
【函館市：中嶋肇 寄贈】
- 恵山貝塚出土石器 28点
【函館市：福澤玉樹 寄贈】
- 火縄銃 ほか 2点
【函館市：二本柳京子 寄贈】
- 函館市古希記念贈答輪島塗膳椀一揃 7点
【東京都：小竹嘉子 寄贈】
- 4円切手 ほか 2点
【千葉県：伊豆和代 寄贈】
- 手ぬぐい 4点

- 【函館市：高橋裕 寄贈】
 - 出征絵 1点
【東京都：及能雅子 寄贈】
 - 書 ほか 198点
【札幌市：河合理子 寄贈】
 - 滝の図 ほか 198点
【兵庫県：土田和比古 寄贈】
 - トラピスチヌ修道院絵葉書 10点
【稚内市：中村みつる 寄贈】
 - 弁天島八千代橋の図 1点
【函館市立南茅部小学校 移管】
- (敬称略)

デジタルアーカイブ

当館では平成26年度から収蔵資料のデジタル化を進め、令和4年度までに1,134点をホームページ上で公開しており、今年度は新たに971点を追加しました。本事業については、公立はこだて未来大学に委託してホームページに掲載するとともに、資料や絵画・古地図等大型資料の高精細画像の撮影にも協力を得ています。今後も引き続きデジタルアーカイブ化を推進して掲載資料を増やしながら、多くの方々に収蔵資料を知っていただくために取り組んでいきます。

- 考古資料 457件
 - 歴史資料 286件
 - 民族資料 224件
 - 美術資料 214件
 - 自然資料 554件
 - 民俗資料 370件
- 合計2,105件

— 普及（展覧会） —

企画展

- 「外国人が見たみなとまち HAKODATE」


期 間	6月27日(火)～10月15日(日)
開館日数	92日
出品協力	函館市中央図書館
出品資料	ペリー来航絵巻ほか 74点
観覧者数	4,659名
関連事業	展示解説2回
担 当	内田



常設展・収蔵資料展

■はこだての歩み(通史・常設展)

第1展示室では縄文時代から現代までの函館の通史を11のコーナーに分けて展示しています。これまで、ロビーで展示していた考古資料を含め、樽岸遺跡の旧石器時代の資料から縄文、続縄文、中世から戦後までをカバーしています。また、辰年にちなみ、蠣崎波響の絵画コーナーでは「龍図」を展示したほか、「縁起物をさがそう！」というイベントを開催し、「一富士、二鷹、三茄子」を展示に盛り込み、観覧者へクイズとして投げかけて、正解者には職員手作りのしおりをプレゼントしました。また8月に開催されたフォーラムに合わせ、石巻出身のロシア語通訳セキリョフ善六が描かれた北夷談附図(函館市中央図書館蔵)などを展示紹介しました。

期 間	通年	
開館日数	開催中	
出品協力	函館市中央図書館・函館市教育委員会文化財課 ほか	
出品資料	ペリー提督寄贈の洋酒びん ほか	
担 当	大矢	



善六来函210周年記念ツアーの様子



蠣崎波響
「龍図」



「縁起物をさがそう！」で
展示した茄子の置物

■函館の円筒土器文化(収蔵資料展)

3階第2展示室において開催しています。縄文時代前期から中期に津軽海峡を挟んだ北海道南部から北東北に栄えた「円筒土器文化」の遺跡は、サイベ沢遺跡をはじめ函館市内に数多く存在していますが、本展では遺跡から出土した100点余りの円筒土器をはじめ土偶やヒスイなど貴重な資料を展示しています。

期 間	令和5年10月24日(火)～令和6年6月23日(日)
開館日数	243日
出品資料	サイベ沢遺跡出土土器・土偶ほか 222点
担 当	福田・佐藤



■雛人形展示(収蔵資料展)

旧家に伝わる幕末から明治初頭頃と思われる段飾りの雛人形、大正期の民家で飾られていた御殿雛、明治20年に湯の川で開業した「林長館」で飾られていた「花車」、華やかな「大和絵雛屏風」を展示しました。



期 間	1月27日(土)～3月28日(木)
開館日数	49日
出品資料	雛人形ほか
担 当	福田・小林

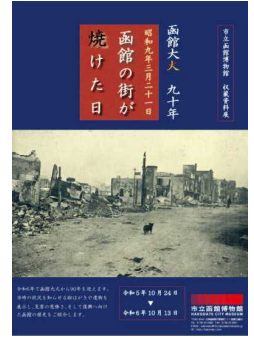
ロビー展

■ 函館大火90年

昭和9年3月21日 函館の街が焼けた日

1934年（昭和9）3月21日、当時の函館市内の3分の1以上を焼失する大火が発生しました。2024年（令和6）で90年を迎えることから、絵葉書や遺物などで災害の悲惨さを伝えるとともに、復興を目指したまちづくりについても展示しています。

期 間	令和5年10月24日（火）～ 令和6年10月13日（日）
開催日数	356日
出品資料	函館大火絵はがき ほか 約40点
担 当	内田



展覧会開催状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
期間	4/1～6/18		6/20 ～ 6/25	6/27～10/15			10/17 ～ 10/22	10/24～3/31				
ロビー	「先史時代の函館」 担当: 佐藤・福田			「先史時代の函館」 担当: 佐藤・福田				収蔵資料展 「函館大火90年 昭和9年3月21日 函館の街が焼けた日」 担当: 内田				
第1展示室	収蔵資料展 「はこだての歩み」 担当: 大矢			収蔵資料展 「はこだての歩み」 担当: 大矢				収蔵資料展 「はこだての歩み」 担当: 大矢				
第2展示室	収蔵資料展 「刀と鐔」 担当: 内田		展示 替え	企画展 「外国人が見たみなとまち HAKODATE」 担当: 内田			展示 替え	収蔵資料展 「函館の円筒土器文化」 担当: 福田・佐藤				
第3展示室	収蔵資料展 「箱館戦争」 担当: 内田			収蔵資料展 「箱館戦争」 担当: 内田				収蔵資料展 「箱館戦争」 担当: 内田				

第3展示室右奥 1/27～3/28「難人形展」担当: 小林・福田

令和5年度展覧会開催日数・入館状況

	常設展	企画展	合計
開催期間	4/1～6/18, 10/24～ 3/31	6/27～10/15	
開催日数	190日	92日	282日
有料入館者	4,737人	3,895人	8,632人
無料入館者	4,686人	764人	5,450人
入館者合計	9,423人	4,659人	14,082人

3	夏休み自由研究「池のなかを見てみよう」	7月26日（水）	学芸員	19/20
4	夏休み自由研究「汐泊川 歴史と自然観察ツアー」	7月28日（金） 8月10日（木）	外部講師 学芸員	6/20 7/20
5	夏休み自由研究「黒曜石で矢じりをつくろう」	7月29日（土）	外部講師	5/15
6	夏休み自由研究「大森浜の貝で標本箱をつくろう」	8月2日（水）	外部講師 学芸員	9/15
7	夏休み自由研究「鹿の角で縄文時代の釣り針をつくろう」	8月5日（土）	学芸員	5/10
8	夏休み自由研究「日本画でうちわづくり」	8月6日（日）	外部講師	3/10
9	五稜郭探求～五稜郭と函館戦争を検証する～	8月20日（日）	外部講師	15/15
10	博物館旧1号館公開	9月23日（土）	学芸員 実習生	503
11	函館公園めぐり	10月1日（日）	学芸員	6/20

— 普及（講座） —

令和5年度 講座開催実績

【単講座】

No.	講座名	開催期日	講師	参加/定員
1	渡り鳥の観察会	5月13日（土）	外部講師	14/20
2	博物館旧1号館公開	5月27日（土）	学芸員 友の会	170

12	千島アイヌのコイリング技法でコースターをつくろう	10月3日(火)	外部講師	6/6
13	アイヌの花ござ編みの技法でコースターをつくろう	10月15日(日)	外部講師	7/10
14	体験！日本画講座	10月29日,11月4日,5日,12日,19日,26日(土・日)	外部講師	4/8
15	秋の自然観察会	11月18日(土)	外部講師	7/20
16	アイヌの女性用小刀「メノコマキリ」をつくろう	11月19日(日)	外部講師	10/10
17	冬休み自由研究「縄文時代のまが玉をつくろう」	1月11日(木)	学芸員	8/10
18	冬休み自由研究「粘土で縄文時代の土偶をつくろう」	1月12日(金)	学芸員	11/10

計 815名

【展示解説セミナー】

No.	講座名	開催期日	講師	参加
1	展示解説セミナー 企画展「外国人が見たみなとまち HAKODATE」	7月9日(日)	内田	11
		9月17日(日)		14
				計 25名
2	展示解説セミナー 「博物館まるごと解説」	9月24日(日)	学芸員	11
		3月16日(土)		17
				計 28名

【おもてなし講座等】

No.	講座名	開催期日	件数/参加数
1	展示解説	通年	27件416名
2	バックヤードツアー	通年	12件141名
3	見せます！お宝公開！	4/1~11/3の開催日	0件 0名
4	函館博物館見学	4/1~11/3の開催日	0件 0名

※人数は、複数講座受講者を含む延べ人数 計 39件/557名

■夏休み自由研究「黒曜石で矢じりをつくろう」

夏休みには、縄文文化についての二つの講座を開催しました。そのうち黒曜石を使った矢じりづくりでは、今金町教育委員会の宮本さんを講師に、石器づくりの原理から習い、黒曜石を割って矢じりに加工して弓矢を作り、体験用の弓矢を実際に飛ばして、縄文時代の狩りについて体験しました。



■博物館一号館公開でのミニ展示

旧函館博物館1号を、開館記念日に合わせた5月27日(土)と、函館公園ファミリーフェスタに合わせた9月23日(土)に公開しました。それぞれ170名と503名の多くの見学者が来館されました。開拓使時代の資料や化石の展示のほか、土器の復元パズルやハンズオン展示を実施しました。本物のアンモナイトの化石に触れて驚く方もいました。



旧1号館公開の様子



アンモナイト化石のハンズオン展示

協力機関等

佐藤理夫、中田弥幸、宮本雅通、尾崎渉、安積徹、信太成子、市立函館博物館友の会、公益財団法人アイヌ民族文化財団(順不同・敬称略)

— 調査・研究 —

調査

- 花光春之助関係資料調査(7月20日)(大矢・内田・佐藤)
- 塚本角次郎関係資料調査(12月27日)(大矢)
- 函館文庫調査(12月27日)(内田)
- 森武寅雄関係資料調査(1月31日)(大矢)
- 函館大火関係資料調査(3月15日)(内田・佐藤)
- 蝦夷錦調査(3月28日)(福田)
- 池谷寅一資料調査(通年)(大矢・内田)

研究論文・コラム等

【研究論文等】

- 福田裕二「〈研究ノート〉サイベ沢遺跡出土の円筒土器を考える(1)」『市立函館博物館研究紀要』34 市立函館博物館 2024(電子版)
- 小林貢「〈資料紹介〉平成25年に受け入れた写真資料に関する聞き取り調査—南茅部地域の戦前の大謀網漁(鮪漁)について—」『市立函館博物館研究紀要』34 市立函館博物館 2024(電子版)
- 佐藤智雄「能登川コレクションの石器について」『市立函館博物館研究紀要』34 市立函館博物館 2024(電子版)

【新聞掲載コラム】

北海道新聞(夕刊 みなみ風)掲載「学芸員リポート」
・福田裕二「円筒土器」(2月28日)

【道南ブロック博物館施設等連絡協議会ブログへのコラム投稿】

- 福田裕二「円筒土器」
- 大矢京右「千島アイヌのテンキづくり講座覚書」
- 内田彩葉「展示・展示・展示・・・」

研究発表等

- 縄文文化交流センター「戸井貝塚展に係る講演会」(8月6日)講師(佐藤)
- 高齢者大学湯川校「外国人が見たみなとまち HAKODATE」(8月23日)講師(内田)
- 亀田老人大学「外国人が見たみなとまち HAKODATE」(8月29日)講師(内田)
- 高齢者大学青柳校「外国人が見たみなとまち HAKODATE」(8月31日)講師(内田)
- 知里幸恵を推す仲間の会「知里幸恵朗読会「知里幸恵 今に生きる」」(9月7日)講師(大矢)
- 函館市立巴中学校 総合学習SDGs講話「アイヌの歴史と文化」(10月27日)講師(大矢)

印刷物発行

- 令和5年度企画展示図録『外国人が見たみなとまち HAKODATE』市立函館博物館 6月27日発行 31頁
- 『市立函館博物館研究紀要』34(電子版) 市立函館博物館 3月31日発行

— 協力事業等 —

協力事業

【資料貸出】

- 市立函館博物館郷土資料館常設展示 明治期の歴史・民俗資料等を展示
 - 函館市北方民族資料常設展示 アイヌ・北方民族資料等を展示(7・11月展示替え)
 - 函館市文学館常設展示「梁川剛一コーナー」挿し絵・彫塑等を展示
 - 函館市北洋資料館常設展示 北洋漁業関係資料を展示
 - 函館市消防本部 「消防自動車(アーレンス・フオックス号)」等を展示
 - 函館市戸井西部総合センター展示コーナー 「戸井の板碑」・土器・石器等を展示
 - 箱館奉行所常設展示(平成22年7月28日～)「エンフィールド銃」等 計6点貸出
 - 函館市恵山教育事務所(恵山コミュニティセンターで展示)「恵山町の縄文と世界遺産」(令和3年7月28日～)「日の浜遺跡出土品」等 計14点展示
 - 函館市縄文文化交流センター常設展示(平成28年4月1日～)戸井貝塚出土資料等 計112点貸出
 - 北海道立函館美術館「生誕100年 鎌田俳捺子展」(4月29日～9月24日)「トルコ帽の妹」貸出
 - 石川県九谷焼美術館特別展「九谷赤絵」(巡回)展(令和5年6月28日～令和8年)「宮本屋窯 人物瑞獣図鉦鉢」貸出
 - 函館市縄文文化交流センター企画展「戸井貝塚展」(8月1日～10月1日)「角偶」等 計92点貸出
 - 国立アイヌ民族博物館特別展示「考古学と歴史学からみるアイヌ史展—19世紀までの軌跡—」(9月16日～11月19日)「クマ形骨偶」等 計17点貸出
 - 函館デザイン協議会「函館デザイン協議会設立30周年記念 第30回会員作品展1993-2023」(12月6日～12月10日)「HERBARIUM DESK」一式貸出
 - 北海道立函館美術館「生誕120年 前田政雄展 木版画とともに歩んだ50年」(令和5年12月23日～令和6年4月14日)「元町風景」等 計4点貸出
- #### 【収録・出演】
- NHKニュース 収蔵資料展「刀と鐔」紹介(4月17日)放送(内田)
 - FMいるか「いるか号中継」 「旧函館博物館1号公開」紹介(5月20日)(福田)

- STV「道南スケッチ」 企画展「外国人が見たみなとまち HAKODATE」紹介（7月8日）放送（内田）
- FMいるか「人ネットワーク」 企画展「外国人が見たみなとまち HAKODATE」紹介（8月9日）放送（内田）
- エフエムしろいし 「北前船について」（8月18日）電話インタビュー（佐藤）
- FMいるか「いるか号中継」 収蔵資料展「函館の円筒土器文化、函館大火」紹介（11月8日）放送（福田・内田）
- STV「道南スケッチ」 「函館大火」紹介（2月3日）放送（内田）
- NHK函館「ほっとニュース函館」 「函館大火」紹介（3月15日）放送（内田）
- NCV「母の死～函館大火から90年～」（3月30日）放送（内田）

【会議出席等】

- 道南ブロック博物館施設等連絡協議会令和5年度第1回役員会（5月18日、松前町）出席（熊谷・大矢）
- 道南ブロック博物館施設等連絡協議会令和5年度総会・研修会（6月28日、松前町）出席（福田・小林）
- 令和5年度北海道博物館協会第2回役員会・第61回北海道博物館大会（7月12・13日、恵庭市）出席（熊谷）
- 令和5年度第1回国立アイヌ民族博物館ネットワーク運営委員会（7月25日）オンライン出席（大矢）
- アイヌ政策推進ネットワーク会議（7月27日）オンライン出席（大矢）
- 道南ブロック博物館施設等連絡協議会令和5年度第2回役員会（8月31日、七飯町）出席（熊谷・福田）
- 三内丸山遺跡センター 三内丸山遺跡特別研究推進事業 令和5年度共同研究「円筒土器文化における集落の実態をさぐる」第1回研究会議（12月9日）出席（福田）
- 道南ブロック博物館施設等連絡協議会令和5年度第3回役員会（12月19日、七飯町）出席（熊谷・福田）
- 道南ブロック博物館施設等連絡協議会令和4年度第4回役員会（3月13日）オンライン出席（熊谷・福田）
- 三内丸山遺跡センター 三内丸山遺跡特別研究推進事業 令和5年度共同研究「円筒土器文化における集落の実態をさぐる」第3回研究会議（3月

18日）出席（福田）

- 令和5年度第3回国立アイヌ民族博物館ネットワーク運営委員会（3月22日）オンライン出席（大矢）

【後援】

- 函館アイヌ協会主催「イチャルパ（アイヌの伝統儀礼）」（10月14日）後援

【その他】

- 裏千家「お茶会」

4月30日、館内の茶室で裏千家によるお茶会が開催されました。これに合わせて集会室に掛け軸や屏風を展示し、観覧いただいてからお茶を楽しまれるよう工夫し、参加された方々からは、「日本画を見学してからお茶を味わうのは風情がある」、「このような機会があれば、また参加したい」という声が聞かれました。

- 「蝦夷錦」実物大パネル展示

6月1日から宗谷管内学芸職員連絡協議会の主催で開催された「北のシルクロードと蝦夷錦」展において、当館所蔵「蝦夷錦」2点の実物大パネルが展示されました。同展は大陸から樺太や北海道へつながる交易圏「北のシルクロード」について紹介するもので、枝幸町を皮切りに稚内市や利尻町などの宗谷管内9市町村10会場で巡回展示され、12月17日ま



での開催期間中に6,557人の見学者が会場を訪れました。



- 函館市役所市民ホール展示

戦後78年の本年、7月10日から21日までの12日間にわたり、市役所1階市民ホールにおいて「函館空襲と太平洋戦争～戦争と平和資料展～」を開催しました（函館市総務部総務課主管）。会場では配給申込書や日章旗等を展示したほか、1945年7月14日の函館空襲時の写真やその合同慰霊祭の資料なども展示し、会場を訪れた約1,800人の市民に戦争の悲惨さと平和の大切さについて紹介しました。



■民俗資料	5件
■博物館史資料	0件
■その他	0件
	合計149件

博物館実習

5月12日に北海道大学水産学部から施設見学実習として13名の実習生が来館し、学芸員の案内で展示室と収蔵庫を見学しました。館務実習は、昨年同様に前半(9月1～12日)に5名、後半(14～26日)に4名の2回に分けて実習生を受け入れました。実習生は北海道大学2名、札幌大学・東京学芸大学・八洲学園大学・昭和音楽大学・日本大学・上智大学・大正大学から各1名が参加しました。内容は収蔵資料の調査や整理のほか、「カルチャーナイト」や「旧1号館公開」で展示や解説など、多様な博物館活動を経験しました。



民俗資料調査・整理作業



旧1号館公開 展示解説

■市立函館高等学校地域探究学習

10月28日・29日の日程で、「博物館で探る縄文文化」・「博物館で探る昔の暮らし」の学習を行いました。参加者は興味をもったテーマごとに分かれて、博物館にある資料や文献を利用して調べながら、それぞれプレゼンテーションに向けた資料を作成しました。縄文文化をテーマにしたグループは、土器、石器、土偶について各自の視点でまとめました。昔の暮らしをテーマにしたグループは、トランジスタラジオについて、その歴史や生活の中でどのように位置づけられたのか調べてまとめました。



縄文文化の班の様子



昔の暮らしの班の様子

資料利用・調査・掲載等

■考古資料 (「北海道志海苔中世遺構出土銭」等)	43件
■歴史資料 (「戦友姿絵」等)	48件
■民族資料 (「蝦夷錦」等)	34件
■美術資料 (「黄昏」等)	17件
■自然資料 (「海藻標本」等)	2件

— 博物館短信 —

博物館協議会

5月12日に令和5年度の第1回博物館協議会を開催し、令和4年度の事業報告のほか、令和5年度事業の予定などを報告しました。11月22日の第2回博物館協議会では、令和5年度の事業中間報告や総合

ミュージアム構想に対する意見や市内中高生からのアンケート結果などを報告し、様々なご意見をいただきました。

歴史文化資源保存活用担当を新設

10月1日より、文化財課内に「歴史文化資源保存活用担当」を設け、「函館市（仮称）総合ミュージアムの整備にあたっての基本的な考え方（たたき台）への意見に関する検討会議」を立ち上げました。令和7年3月までの期間内、新博物館構想について検討していきます。

資料移動

元町公園内の旧開拓使函館支庁書籍庫には、数多くの埋蔵文化財出土品が保管されていましたが、5月に文化財課と連携して全ての資料を戸井地域の施設に仮移設しました。その結果、サイベ沢遺跡の160箱をはじめ合計約1,400箱もの木箱・コンテナが確認できました。今後は内容を確認のうえ、適切な保存活用を図っていきます。



運搬前の保管状況



運搬後の仮保管状況

旧ケース修繕

博物館には明治時代に使われていた木製展示ケースが残されています。すでに百年以上を経過して傷みも多く、使われなくなりましたが、往時を偲ばせる貴重な資料として4年前から順次修繕しながら活用を進めています。本年度は3台のケースを、できる限り当時の状態を残すように修繕しました。



イチャルパ

10月14日、当館が保管するアイヌの人々の遺骨等の慰霊とアイヌ文化の振興を図るため、函館アイヌ協会主催による「第8回函館イチャルパ」が当館横の広場で開催されました。当館が保管するアイヌの人々の遺骨等については取扱方針について策定し、返還等に向けて取り組んでいます。



カルチャーナイト

9月21日のカルチャーナイトでは、毎年好評の「ナイト・ミュージアム」を実施しました。博物館実習の大学生による解説や案内を受けて、来館者の

みなさんは真っ暗な館内で懐中電灯を片手に、展示室や収蔵庫にある剥製、土器などを照らしながら、普段とは違う博物館を楽しんでいました。



懐中電灯を片手に収蔵庫を回る参加者と
収蔵品を解説する実習生



当館所蔵の蝦夷錦

令和6年度企画展開催予告

■企画展「北東アジアのシルクロードー北方交易と蝦夷錦ー」

(令和6年7月2日～10月13日)

かつて北東アジアで形成されていた交易圏「北のシルクロード」では、先住民族や和人のあいだで蝦夷錦やガラス玉などの貴重な「モノ」が流通していました。地方博物館の先駆けである函館博物館には現在もそれらの資料が残されていますが、近年では最新の科学分析によりこれまで知られることのなかった新たな知見が得られています。本展では関係資料に最新の分析結果を合わせて紹介し、「北のシルクロード」の実像に迫ります。



ガラス玉のついた
アイヌの煙草入れ

令和5年度職員構成等

館長 熊谷 正

管理担当

三浦正志 (主査)
高橋陽子
小林政人
(会計年度任用)
倉田みち子
(会計年度任用)
田島公聖
(会計年度任用)

学芸担当

福田裕二 (主査、考古)
大矢京右 (主査、民族・自然)
小林 貢 (民俗)
内田彩葉 (歴史・美術)
佐藤智雄 (旧四町村資料)
山本泰子 (会計年度任用)

※ 函館市中央図書館郷土資料担当

河上有加 (主査) 水島弘美
奥山麻央 (会計年度任用)
宮井七彩 (会計年度任用)
上山陽菜 (会計年度任用)

SARANIP—サラニップ— No. 63

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

北海道函館市青柳町17番1号

TEL:0138-23-5480 FAX:0138-23-0831

E-mail:hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp

— 誌名SARANIP (サラニップ) —

アイヌ語：樹皮を編んで作った袋

博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。